



茨城の土木遺産

川口川閘門

(公園展示施設となった門扉、土浦市)

明治39年(1906年)竣工

霞ヶ浦から土浦市街地への洪水の逆流を防止するため、川口川の河口部に常磐線の盛土と接続して設けられたレンガ造りの閘門。幅約8m、高さ約2m。川口川は市街地整備の進展とともに埋め立てが進み、昭和50年前後に完全に機能を廃止し、閘門の区間は常磐線を潜る地下道となった。閘門の門扉は開いた状態で道路に姿を留めていたが、昭和58年の高架道工事に伴い撤去され、別の場所で保管された。しかし昭和61年、市民からの要望を受けて土浦市が、閘門が存在した地下道に隣接する公園の展示施設として、当時の門扉1枚、排水ポンプ1基を設置。先人の汗と涙の結晶である閘門を後世に伝えている。



主な内容

- ▼ 令和4年度定時総会を開催
- ▼ 令和4年度の新役員が決定
- ▼ 円滑施工へ関東地方整備局と懇談会
- ▼ 足立参議院議員が国政報告会

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

本会はコンプライアンス(法令遵守)をさらに徹底します

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局